



元気な政令市をめざして

私が所属する「市民クラブ」では、7月24日～26日にかけて、下記の都市を視察訪問しました。

参院選の日程が予想より1週間遅れたことから、選挙期間中の視察となりましたが、先方との調整なども済んでいたことから、計画どおり行いました。

「視察」というと、「税金のムダづかい」のイメージを

持たれる方もいらっしゃるかもしれませんが、今回の視察先は「元気な浜松づくり」の参考になるところばかりでした。

今後、しっかりと政策に活かしていきたいと思いますので、ぜひご一読いただき、みなさんからご意見をいただければと思います。

市民クラブ行政視察報告

1. 北九州市

北九州市は人口99万人。40年以上も前「6大都市」と呼ばれていた頃からの政令市です。

100年以上前から「製鉄の街」として栄えてきましたが、産業構造の変化やバブル崩壊後の景気後退により、市勢は大きく変化してきました。

今から20年前に就任した前市長は、社会情勢が変わる中、いち早く行財政改革に取り組み、さらに産業再生も積極的に進めており、今では、かつての元気を取り戻す勢いです。

【産業再生の取り組み】

北部九州地域は、トヨタ(福岡県宮若市)や日産(福岡県荏田町)、ダイハツ(大分県中津市)などの自動車組立工場の進出以降、関連産業を中心に、めざましい産業再生が進んでいます。

こうした中、北九州市は平成17年に「モノづくり産業振興プラン」を策定し、取り組みを進めています。

興味深く感じたのは、「モノづくり」の「モノ」は製品だけでなく、技術や特許も含む概念とし、技術開発を進めるために「産学官」の協力体制を重視している点です。

「モノづくり」は、単に生産性を上げて組立をすればよい……という時代ではありません。いかに付加価値を創出するかが、今後の重要な課題です。

こうした中、北九州市は、平成13年に「北九州学術研究都市」を開設。理工科系の国公立大学や研究機関が同一キャンパスに集積したエリアをつくり、「産学官」の連携を図っています。

浜松は、政令市の中でも、企業(産)の研究開発者が多いという特徴をもっています。静大工学部(学)があるとはいえ、この特徴的な資源をより活かすことを考えてもよいのではないのでしょうか。



< 企業誘致も積極的に(北九州市HPより) >

【行財政改革】

前北九州市長は在職 20 年の長期政権でした。長きにわたってトップにいと、弊害が出てくるものですが、前市長は行革にもしっかりと取り組んでいたようです。

製鉄の街ゆえに、いち早く産業構造改革を迫られた都市の事情もあったのですが、必要な都市基盤整備を行いつつとにかくムダをなくしています。

「選択と集中」を進め、事務事業の見直しで削減できた人員を、少子高齢化対策や産業活性化、環境対策、国際戦略の強化に振り向けています。

北九州市は「子育て日本一」を目指しており、実際に、民間 NPO 団体が選ぶ「子育てしやすい都市」で、政令市中 1 位となっています。また「世界の環境首都」も目指しています。

やっていることは浜松市もそんなに変わりません。しかし浜松よりもずいぶん先行しています。どこに差があるのでしょうか？

私は、トップと職員、そして市民の「意識」の差だと思いました。

高炉の火が現実消え、製鉄の街としての歴史を変えていかざるを得なかった北九州市と、相対的に「元気」と言われる製造業に支えられてきた浜松の違いではないでしょうか。

浜松も政令市スタートを機に、まず「意識改革」を進めるべきだと思います。

2 . 大分市

【大分地方卸売市場の活性化】

「なんでわざわざ大分まで市場を見に行くの？」との声が聞こえてきそうですが、実は「大分地方卸売市場」は、今、関係者の注目を集めている施設なのです。

「卸売市場」は、野菜、果実、魚類、肉類、花卉(かき)類のような生鮮食料品などの卸売のために開設されており、規模などの要件により「中央卸売市場」「地方卸売市場」「その他市場」の3種類があります。

「大分地方卸売市場」は、昨年、「中央卸売市場」から「地方卸売市場」へ自主転換し、活性化が進んだ事例です。

「地方市場」の最大のメリットは、“規制”が少ないことです。例えば「中央市場」は、毎日“報告書”を出さねばならないのですが、「地方市場」にはそれがありません。

これだけでも人件費・事務費の削減につながり、より生産性の高い仕事(集荷など)につながったとのことでした。

この他にも、卸売業者の委託手数料も自由化できることから、より独自性を発揮できますし、参入事業者の承認手続きが簡素化され、新陳代謝が進むことも考えられます。

「浜松中央卸売市場」は現在黒字経営ですが、数年後には耐震のための大規模改修が必要となっています。市場をもっと活性化できないか、市民のためにならないか、財政的にも貢献できないか……。今後の議論に資していきたいと思います。

3 . 別府市

【観光再生「ONSEN ツーリズム」の取り組み】

別府市は人口12万人、面積125平方キロ。浜松市西区を少し大きくしたような街です。

温泉の湧出量はダントツの日本一。熱海市とは姉妹都市の関係です。

観光客が「団体→個人」「宿泊→日帰り」と変化する中で、新たな活性化策として、平成15年から、市民協働による「泉都別府ツーリズム支援事業」をスタート。これまでにハード・ソフト合わせて、のべ120を超える「まちづくり&観光再生」事業が、各層各種の市民団体により実施されています。

観光は次世代の成長産業として注目されています。浜松も西区に舘山寺・弁天島の温泉地を持つことから、「元気な浜松」づくりの参考にできないか……と思いましたが、残念ながら温泉規模が違いすぎ、別府のように温泉だけを観光資源に利用することは難しいかもしれません。

しかし、市民協働の取り組みや外国人との協働は、ちょっとしたヒントになりました。

4 . 豊後高田市

【中心市街地活性化「昭和の町」の取り組み】

豊後高田市は人口わずか2万6千人の小さな都市。浜松でいえば旧天竜市や旧細江町ほどの規模です。

交通アクセスもよいわけではなく、はっきりいって“田舎町”なのですが、内閣府が「中心市街地活性化基本計画」を認定した全国13市のひとつです。(浜松市も7月末に計画の認定申請を出しました)

さて「昭和の町」ですが、レトロチックな町並みを想像していた私は、いたってフツーのさびれた町並みにビックリ。正直「なんだこりゃ？」と思いましたが、歩くうちに徐々に引き込まれていきました。

店頭ではそれぞれの店が、昭和時代の遺物(お宝)を展示。そしてお店のみなさんの温かな接客が、昭和の懐かしさを感じさせます。

私は、この街のみなさんに「自分たちの街は自分たちで創る」という“熱意”と“自立心”を強く感じました。

浜松では、大丸出店が固まり、中心市街地活性化への期待が高まります。

しかし中心市街地の商店街のみなさんや浜松市民が、「自分たちの街をホントに良くしたい」という熱意を持たなければ、真の再生はできないと感じました。

行政は補助金など財政的な支援は出来ませんが、街づくりは「ハード」だけでなく「ソフト」を充実させることが重要です。これまで以上に市民協働による、街づくり文化の育成が必要だと感じました。

市政トピックス【平成 18 年度浜松市決算報告】

7 月中旬に「浜松市の平成 18 年度決算 実質収支 83 億 8000 万円黒字」という報道がありました。さっそく、お問い合わせをいただきました。

「おい田口。浜松の財政ってそんなに良かったのか？」

「借金はまだまだ一杯あるだろう？」

おっしゃるとおりでして、「借金」は H17 年度末の 5.717 億円から 5.632 億円で、約 85 億円減りましたが、仮に借金返済を増やして、借金残高を 5.550 億円にすれば、この「実質収支」はほぼトントンという訳ですね。

「黒字だ」と喜んでいる場合はありません。

浜松市も努力して前倒して、「繰上償還」を実施しています。

一方、「貯金(財政調整基金の積立)」も、17 年度は 9216 万円でしたが、18 年度は 16 億円することができました。したがって「良くなったか悪くなったか？」といわれれば、「良くなっている」と言うことはできます。

さて、この財政をどう見るかですが・・・、たしかに行財政改革の効果は出ています。しかし、財政的に最も影響が大きかったのは「個人市民税」の増加ではないでしょうか。

「個人市民税」は、「定率減税の廃止」等により、H17 年度 368 億円だったものが、H18 年度は 405 億円で、約 37 億円増えています。結局、われわれの懐から納めた税金で、なんとなかっているというのが今の状況です。

また「財政力指数」は 0.89 となり、前年の 0.84 から改善しました。政令市の中では良い方といわれています。しかし、県内の湖西市、裾野市、富士市などは、財政力指数 1.0 を超えており、これらの都市に比べるとまだまだ財政基盤が弱いといえます。相对比较でなく、絶対数値を良くしていけないと「健全」とは言い切れません。

市民一人あたり、約 70 万円の借金がある浜松市、これからも行財政改革を進めていく必要があります。

(単位:千円)

区 分	17 新市通年ベース	18 決算見込	比較(18-17)
1 歳入総額	252,612,600	255,152,133	2,539,533
2 歳出総額	240,933,210	244,990,001	4,056,791
3 形式収支(1-2)	11,679,390	10,162,132	1,517,258
4 翌年度繰越財源	2,149,072	1,781,154	367,918
5 実質収支(3-4)	9,530,318	8,380,978	1,149,340
6 単年度収支(5-前年度 5)	194,359	1,149,340	1,343,699
7 積立金(財政調整基金)	92,162	1,635,791	1,543,629
8 繰上償還金	515,727	2,128,475	1,612,748
9 基金取崩額(財政調整基金)	250,000	0	250,000
10 実質単年度収支(6+7+8-9)	552,248	2,614,926	2,062,678

17 新市・通年ベースとは合併関係市町村の 4 月～6 月打切決算額を含む。

実質収支とは・・・

歳入決算総額から歳出決算総額を引いた額(形式収支)から翌年度に繰越すべき財源を引いた額。

実質単年度収支とは・・・

単年度収支のなかには実質的な黒字要素や赤字要素が含まれている。これらを控除した単年度収支。



今日は静岡県主催の「多文化共生を考えるシンポジウム」に参加しました。基調講演は静岡文化芸術大学の池上准教授（入野在住の元「父ボラ」仲間）。パネルディスカッションでは、労組の大先輩の杉田さん（現磐田市自治会連合会長）の「杉田節」を、久々に聞かせていただきました。

池上さんの話は、具体的なデータや調査結果に基づいたもので、非常にわかりやすく課題を指摘していました。

現在の外国人住民は、全国的には韓国・朝鮮人が最も多く約 60 万人、次に中国人が急激に増えて約 52 万人、3 番目にブラジル人で約 30 万人となっています。

静岡県には約 10 万人の外国人がおり、最も多いのはブラジル人で、約半数の 5 万人です。またブラジル人の在留資格には特徴があり、「日本人の配偶者」「定住者」「永住者」などの「安定した定住者が多い」とのことです。

そして、ここに「ミスマッチがある」ということです。

1990 年の入国管理法改正後、日系ブラジル人が飛躍的に増えました。まず父親が働きに来て……………、（以下は下記ブログをご覧ください）

田口のブログ《創ろう！元気な浜松》

<http://taguchi-hamamatsu.cocolog-nifty.com/blog/>

【編集後記】

子どもたちは待ちに待った夏休み。我が家の子どもは「受験勉強」「部活」「遊び」と三者三様です。3 人の日々をそれぞれ見ながら、自分もこんな頃があったな～と思い出します。

7 月 29 日の参議院選挙は、ある程度予想はしていたものの、自民党の大敗となりました。自民党は襟を正していただきたいと思いますが、民主党も決して浮かれたりおごったりすることなく、二大政党が政策を互いに競い合い高めあい、国民にとってより良い国を創って欲しいと思います。

さて 8 月は私にとって勉強月間です。9 月 12 日（水）には「一般質問」を予定しており、選挙戦からお話してきた政策を訴える予定です。今はまだ準備中ですが、応援よろしくお願ひします。（章）

7 月の主な活動

- 01(日) 市政記念式典
- 02(月) 西区協議会傍聴
- 04(水) 議会報告会(豊川支部)
- 05(木) 都市計画審議会
- 06(金) 北区協議会傍聴
- 07(土) 参議院議員 池口修次 対話集会
- 08(日) スズキ労組年金セミナー
入野地区自治会長会議
- 09(月) 議会報告会(湖西支部)
- 10(火) 市内施設見学
- 11(水) 議会報告会(スズキ友の会・磐田支部)
- 12(木) 大都市制度調査特別委員会
- 18(水) 議会報告会(湖西工場)
- 19(木) 議会報告会(磐田工場)
市内施設調査
- 20(金) 企業立地促進法等懇談会
- 21(土) ムック石川、ヤマハマリノ夏まつり
- 23(月) 環境経済員会市内視察
- 24(火)～26(木) 会派視察
- 28(土) ヤマハリピングテック労組大会
大平台地区夏まつり
- 29(日) 参議院選挙投票日
- 30(月) 環境経済員会
- 31(火) 多文化共生シンポジウム

8 月の主な予定

- 04(土) 入っ子チャレンジキャンプ
- 06(月) 外部研修(行政財務)
- 07(火) 都市計画審議会
労協協との意見交換会
- 09(木) 行政視察(鳥取県)
- 11(土) 入野地区夏まつり
- 12(日) 佐鳴湖クリーン作戦
- 18(土) 議員野球大会
- 19(日) 全郵政浜松西支部大会
- 21(火) 外部研修(地方分権)
- 23(木) 環境経済委員会
- 26(日) 浜松西政経フォーラム研修会
- 27(月) スズキ労組研修会
- 29(水) 全員協議会